

第1号様式（第7条関係）

## 環境マネジメントシステム導入報告書

( 宛 先 ) 京 都 市 長		平成 27年 7月 24 日
報告者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都市下京区塩小路烏丸西入東塩小路町614番地		報告者の氏名（法人にあっては、名称及び代表者名） 京都駅ビル開発株式会社 代表取締役社長 東 憲昭
京都市地球温暖化対策条例第22条第2項の規定により報告します。		
環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称	環境マネジメントシステム（KESステップ2-SR、ステップ2-En）	
適 用 範 囲	京都駅ビル、事務所	
導 入 年 月 日	24年 6月 1日	
認 証 番 号	KES2SR-0001、KES2En-0001	
基 本 方 針	京都駅ビル開発株式会社は、「持続可能な発展への貢献を最大化」することが人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて、SR活動及びエネルギーパフォーマンスの向上とともに、環境負荷の低減に努めます。また次の方針に基づき環境（SR・エネルギー）マネジメント活動を推進して地球環境との調和を目指します。	
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	①地域コミュニティへの参画→周辺環境整備、サマフェスタ、地域協議会等参加 ②環境共生推進への取組→緑化等の情報発信、外部との連携・情報発信 ③京都駅ビル及び別棟駐車場電気使用量の削減→共に前年比1.5%削減 ④事務所電力使用量の削減：対前年比1.0%削減 ⑤一般廃棄物再資源化率の向上及び事務所ごみ削減→食品廃棄物再資源化率は対前年比維持、ゴミ袋数は対前年比10.0%削減 ⑥事務用紙使用量の削減：対前年比維持	
目標を達成するための取組の内容	①地域コミュニティへの参画→社員アンケートで新たな取組への参画を模索 ②環境共生推進への取組→生物多様性日本アワード応募等、緑化等の情報発信 ③京都駅ビル及び別棟駐車場電気使用量の削減→冷凍機群制御増減段階パラメータの変更、照明の人感センサー化 ④事務所電力使用量の削減→クール・ウォーム・ヒート実施、事務所別電気使用量管理等 ⑤一般廃棄物再資源化率の向上及び事務所ごみ削減→事務所ごみの取扱いを変え、削減意識の定着を図る ⑥事務用紙使用量の削減→廃紙利用とFAXをペーパーレス化推進	
目標を達成するための取組の進捗状況	①地域コミュニティへの参画→達成度累計105.4% ②環境共生推進への取組→達成度累計165.0% ③京都駅ビル及び別棟駐車場電気使用量の削減→駅ビル前年比5.0%削減、別棟前年比0.1%増加 ④事務所電力使用量の削減→照明他前年比1.8%削減 空調前年比71.6%削減 ⑤一般廃棄物再資源化率の向上及び事務所ごみ削減→一般廃棄物資源化率0.2%増加、食品廃棄物資源化率1.0%増加、事務所ゴミ袋数前年比60%削減 ⑥事務用紙使用量の削減→前年比0.8%増加	
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	①②④⑤の項目については「A」（100%以上達成）の成果を得た。 ③の項目については「B」の成果だったが、駅ビル側では前年比5.0%削減できている。別棟についてはLED化工事中止となったが改めて取組みたい ⑥の項目については裏紙が少なくなった事もあり削減できなかったがミクスプリントチェック徹底で再度、削減を図りたい	
事業活動に係る法令の遵守の状況	関係法令を調べ、一覧とすると共に調査を行い、結果遵守できていることを確認した。	
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	①地域コミュニティへの参画→周辺の環境整備、サマフェスタ、京都・梅小路みんながつながるプロジェクト、地域協議会等参加 ②環境共生推進への取組→緑水歩廊公開、専門家・学生への場の提供等 ③京都駅ビル原油換算購入エネルギー量の削減→前年比4.0%削減 ④事務所電力使用量の削減：対前年比1.0%削減 ⑤一般廃棄物再資源化率の向上→一般及び食品廃棄物再資源化率維持 ⑥事務所ごみ削減：前年比ゴミ袋数10%削減	

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。